

京都岡本記念病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の臨床研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

承認番号	2020-19
研究課題名	心房細動に対するカテーテルアブレーションにおける4DCTの有効性に関する検討
研究責任者	循環器内科 加藤 幸範
研究期間	2020年5月25日～2020年12月31日
研究の背景・目的・意義・方法など	<p>心房細動に対するカテーテルアブレーションは、有効な治療方法として確立しています。基本的な治療は、肺静脈隔離術ですが、これに左心房の自律神経節アブレーションを追加することが有効であるという報告もされています。左心房の自律神経節を評価するには、心筋に直接カテーテルを接触させ、刺激を1点ずつ与える必要があります。左心房のある領域に自律神経節が分布していることから、アブレーション術前に行う心臓CTを4D解析し、左心房の壁運動を評価することで自律神経節の分布を予測できる可能性があります。実際にアブレーション中に作成した3Dマッピングシステムによる自律神経節の分布と照らし合わせることで、4DCTが自律神経節分布の評価に有用性があるかを検討します。この研究は倫理委員会の審議に基づき、病院長の許可を得て実施します。</p> <p>カテーテルアブレーション術前に施行された心臓CTの内、4D解析可能な条件で撮影されたデータを用い、Ziostation2（ザイオソフト/アミン）で3D/4D解析を行います。その解析結果と、実際にアブレーション中に作成した3Dマッピングシステム（Abbott, EnSite Precision）の自律神経節分布が一致しているかを評価します。</p>
対象者	2019年8月15日～2020年12月31日の間に当院で心房細動に対するカテーテルアブレーションを受けられ、術前の心臓CTが4D解析可能な条件で撮影され、アブレーション中に自律神経節分布の評価が行われた患者
個人情報の保護	個人のデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）状態で、国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
研究協力の任意性と撤回の自由	本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報などを研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、お申し出下さい。ただし、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、ご希望に添えない可能性があります。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。
研究データの二次利用	本研究のデータを別の目的の研究に二次的に利用する場合がありますが、その際には、改めて倫理委員会の承認を得た上で、お知らせいたします。
問い合わせ先	京都岡本記念病院 循環器内科 加藤 幸範 Tel 0774-48-5500